



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月14日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

上場取引所 東

コード番号 7571 URL <https://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者 (C (氏名) 山野 義友
EO)

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 2024年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	10,164	0.8	28		19		33	
2023年3月期第3四半期	10,244	7.2	184	526.0	176	933.0	56	

(注)包括利益 2024年3月期第3四半期 45百万円 (%) 2023年3月期第3四半期 78百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	0.95	
2023年3月期第3四半期	1.61	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	9,155	1,232	13.5
2023年3月期	9,357	1,331	14.2

(参考)自己資本 2024年3月期第3四半期 1,232百万円 2023年3月期 1,331百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		1.50	1.50
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				1.50	1.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,100	1.4	240	19.4	230	19.8	140	19.4	4.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社灯学舎、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	35,830,058 株	2023年3月期	35,830,058 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	943,538 株	2023年3月期	956,869 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	34,876,195 株	2023年3月期3Q	34,873,189 株

当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また1株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、行動制限の緩和やインバウンド需要の回復などから、社会経済活動の正常化が緩やかに進みました。一方で、不安定な国際情勢の中、世界的な資源価格及び原材料価格の高騰や円安の影響による物価の上昇、人件費の高騰等が懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社グループにおきましては、2022年5月にグループ入りした学習塾を運営する東京ガイダンス株式会社及び同年6月にグループ入りしたリユース事業を展開する株式会社OLD FLIPが期初より売上高に寄与いたしました。一方で、教育事業及びその他事業を除く既存事業については減収となりました。売上構成比の高い和装宝飾事業については、当初、コロナ禍後の本格的な回復を下期以降に見込んでおりましたが、物価上昇に伴う消費者心理の低下から顧客単価が減少し、売上高は前年を下回りました。なお、コロナ禍において抑制してきた採用や人財教育・研修等の取り組みについては積極的に取り組んでおり、事業領域の拡大に向け組織基盤の更なる強化を目指しております。また、2023年12月に、新たに学習塾を運営する株式会社灯学舎の株式取得を実施し、教育事業の更なる拡大を図っております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、101億64百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

損益面では、採用強化による採用費及び人件費等の増加に加え、販売費の増加や前期の子会社株式取得によるのれん償却費の増加等があり、営業損失は28百万円（前年同期は営業利益1億84百万円）、経常損失は19百万円（前年同期は経常利益1億76百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は33百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益56百万円）となりました。

なお、営業損益につきまして、前期は販管費の一部を特別損失「新型コロナウイルス感染症による損失」へ振替計上しており、前期の特別損失振替前の営業損失29百万円と同水準となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

・美容事業

美容事業においては、指名制度の導入やメニュー提案等により顧客単価は上昇いたしました。一方で、前期不採算店舗7店舗を閉鎖した影響があり、売上高は14億70百万円（前年同期比2.0%減）となりました。損益面では、広告媒体の見直しによる広告費の削減等を進めましたが、売上の減少の影響に加え、従業員の採用及び育成強化による人件費等の増加もあり、セグメント利益は17百万円（前年同期比40.0%減）となりました。

美容事業では、引き続き、一人当たり生産性の向上や来店客数回復への取り組みの強化、業態・ブランドごとの広告宣伝を見直し等を実行し、効果的な顧客獲得に努めてまいります。また、店舗業態の転換や新業態への展開の検討を継続して推進し、収益の拡大を図ってまいります。

・和装宝飾事業

和装宝飾事業においては、来店客数及び合同大型展示販売会の来場者数は前年を上回りました。一方で、当初、コロナ禍後の本格的な回復を下期以降に見込んでいましたが、物価上昇に伴う消費者心理の低下から顧客単価が減少しました。その結果、売上高は70億46百万円（前年同期比2.5%減）となりました。損益面では、売上の減少に加え、採用強化による採用費及び人件費の増加、販売施策の強化による販促費の増加等もあり、セグメント利益は19百万円（前年同期比86.5%減）となりました。

和装宝飾事業では、新しいツールを活用した社員教育を試験的に導入し、知識向上及びお客様へのサービス向上に向け取り組んでおります。また時代に沿った店頭商材の導入や「前染結び着方教室」を通じきものファン化を推進するとともに、着る機会の提供として「きもの会」を各店舗、各エリアで開催しております。開催数、参加者数は前年を上回る形で推移しております。引き続きお客様へのソフトと価値の提供を強化し、顧客満足度の向上を図ってまいります。

・DSM事業

DSM事業においては、販売員や顧客の高齢化もあり依然厳しい状況が続いておりますが、経営基盤の整備等を図ったこともあり減収額は縮小傾向で推移しております。前期に拠点の統廃合を実施した影響や販売稼働数の低下等もあり、売上高は6億55百万円（前年同期比7.7%減）となりました。損益面においてもコスト管理強化の推進は継続しておりますが、売上高減少による売上総利益の減少は補えず、セグメント損失は35百万円（前年同期はセグメント損失4百万円）となりました。

DSM事業では、引き続き顧客数を増やすための紹介キャンペーンの実施や休眠顧客の深耕開拓に努めるとともに、提案商品や動員企画の見直しを図り、収益改善に努めてまいります。

・教育事業

教育事業においては、株式会社マンツーマンアカデミーの安定した塾運営による増収に加え、2022年5月付で連結子会社に加わった東京ガイドダンス株式会社が期初より寄与し、売上高は7億59百万円（前年同期比15.2%増）となりました。損益面では、株式会社マンツーマンアカデミー、東京ガイドダンス株式会社がともに順調に推移したことで、セグメント利益は60百万円（前年同期比201.0%増）と大きく伸ばいたしました。

教育事業では、「スクールIE」のブランド特色を活かし、他社との差別化を図るとともに、キャリアアップ研修の充実やさまざまな育成プログラムなど人材育成にも注力し、さらなる顧客満足度向上に繋げ、安定的な収益確保に努めてまいります。なお、2023年12月1日付で取得した株式会社灯学舎については、当第3四半期連結会計期間は、貸借対照表のみを連結しており、同社の業績は含まれておりません。

・その他の事業

その他の事業の収益は、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益及び一般社団法人日本技術技能教育協会の着物着付け教室の運営収益に加え、2022年6月付で連結子会社化した、リユース事業を営む株式会社OLD FLIPの業績が期初より寄与し、売上高は2億32百万円（前年同期比55.1%増）となりましたが、損益面では、物価上昇による物流費や仕入単価等の上昇があり、セグメント損失は56百万円（前年同期はセグメント損失26百万円）となりました。なお、株式会社OLD FLIPにつきましては、収益化に向け運営施策を強化するとともに、拡大が期待されるリユース市場を通じて、様々なサステナブル商品の可能性に取り組んでおります

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて2億2百万円減少し91億55百万円となりました。これは主に現金及び預金が4億21百万円減少し、売掛金が65百万円増加、商品が64百万円増加、のれんが70百万円増加したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて1億3百万円減少し79億22百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が78百万円増加、電子記録債務が83百万円増加、未払法人税等が56百万円減少、長期借入金が1億71百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ98百万円減少し12億32百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金33百万円の減少、配当52百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月15日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,319,477	2,898,352
売掛金	2,561,415	2,627,233
商品	1,360,317	1,424,581
貯蔵品	115	86
その他	247,684	214,894
貸倒引当金	△11,737	△11,836
流動資産合計	7,477,272	7,153,312
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	733,006	760,954
減価償却累計額	△475,934	△490,266
建物及び構築物(純額)	257,071	270,687
車両及び運搬具	—	3,238
減価償却累計額	—	△3,238
車両及び運搬具(純額)	—	0
工具、器具及び備品	204,934	212,084
減価償却累計額	△181,249	△187,553
工具、器具及び備品(純額)	23,684	24,530
土地	40,211	36,511
リース資産	79,777	79,777
減価償却累計額	△61,677	△70,143
リース資産(純額)	18,099	9,634
有形固定資産合計	339,068	341,364
無形固定資産		
のれん	325,161	395,356
その他	19,289	31,137
無形固定資産合計	344,450	426,493
投資その他の資産		
投資有価証券	151,713	132,423
長期貸付金	37,790	37,346
繰延税金資産	135,210	167,814
敷金及び保証金	832,797	844,170
その他	62,341	74,467
貸倒引当金	△23,316	△22,252
投資その他の資産合計	1,196,535	1,233,969
固定資産合計	1,880,054	2,001,827
資産合計	9,357,326	9,155,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	899,234	977,559
電子記録債務	575,810	659,532
短期借入金	1,630,000	1,620,000
1年内返済予定の長期借入金	504,704	469,748
未払金	512,046	642,683
前受金	1,262,236	1,294,452
未払法人税等	61,823	5,294
賞与引当金	115,163	56,170
役員賞与引当金	7,550	—
株主優待引当金	5,829	5,829
資産除去債務	6,030	4,438
その他	321,010	242,256
流動負債合計	5,901,440	5,977,966
固定負債		
長期借入金	1,707,164	1,535,775
長期未払金	44,467	22,543
退職給付に係る負債	23,398	22,616
役員株式給付引当金	31,894	31,894
繰延税金負債	—	2,331
資産除去債務	295,299	303,042
その他	22,320	26,024
固定負債合計	2,124,543	1,944,227
負債合計	8,025,984	7,922,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	178,374	178,374
利益剰余金	1,263,088	1,177,102
自己株式	△91,702	△91,497
株主資本合計	1,359,760	1,273,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△28,418	△41,034
その他の包括利益累計額合計	△28,418	△41,034
非支配株主持分	—	—
純資産合計	1,331,342	1,232,946
負債純資産合計	9,357,326	9,155,139

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	10,244,365	10,164,059
売上原価	5,016,482	4,981,630
売上総利益	5,227,882	5,182,428
販売費及び一般管理費	5,043,710	5,211,343
営業利益又は営業損失(△)	184,171	△28,914
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,813	2,412
受取地代家賃	1,224	136
助成金収入	2,962	5,869
受取和解金	—	15,396
その他	7,975	8,071
営業外収益合計	14,975	31,885
営業外費用		
支払利息	16,470	16,126
障害者雇用納付金	2,912	3,250
その他	2,826	2,999
営業外費用合計	22,209	22,375
経常利益又は経常損失(△)	176,937	△19,404
特別利益		
固定資産売却益	4,988	7,190
雇用調整助成金	137,924	—
その他	7,374	—
特別利益合計	150,287	7,190
特別損失		
固定資産除却損	1,553	30
減損損失	2,400	159
店舗閉鎖損失	160	5,962
新型コロナウイルス感染症による損失	213,311	—
その他	14,002	796
特別損失合計	231,429	6,948
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	95,795	△19,163
法人税等	39,773	13,923
四半期純利益又は四半期純損失(△)	56,022	△33,087
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	56,022	△33,087

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	56,022	△33,087
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,103	△12,615
その他の包括利益合計	22,103	△12,615
四半期包括利益	78,125	△45,702
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	78,125	△45,702
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,500,223	7,110,492	709,949	659,259	9,979,924
その他の収益(注4)	—	114,695	—	—	114,695
外部顧客への売上高	1,500,223	7,225,188	709,949	659,259	10,094,620
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	—	—	—	10
計	1,500,233	7,225,188	709,949	659,259	10,094,630
セグメント利益又は損失(△)	29,785	148,075	△4,301	20,212	193,772

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	149,744	10,129,669	—	10,129,669
その他の収益	—	114,695	—	114,695
外部顧客への売上高	149,744	10,244,365	—	10,244,365
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,592	4,602	△4,602	—
計	154,337	10,248,967	△4,602	10,244,365
セグメント利益又は損失(△)	△26,063	167,709	16,462	184,171

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額16,462千円には、のれんの償却費△32,348千円、各報告セグメントに配分していない全社費用48,595千円、棚卸資産の調整額0千円及びセグメント間取引消去216千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	和装宝飾	D S M	教育	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	2,400	—	—	2,400

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結累計期間において、東京ガイダンス株式会社の株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「教育事業」セグメントにおいて、のれんが312,185千円増加しております。また、株式会社OLD FLIPの株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「その他」セグメントにおいて、のれんが51,041千円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,470,698	6,927,144	655,017	759,760	9,812,620
その他の収益(注4)	—	119,222	—	—	119,222
外部顧客への売上高	1,470,698	7,046,367	655,017	759,760	9,931,843
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27	—	—	—	27
計	1,470,725	7,046,367	655,017	759,760	9,931,870
セグメント利益又は損失(△)	17,873	19,917	△35,200	60,833	63,424

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	232,216	10,044,837	—	10,044,837
その他の収益	—	119,222	—	119,222
外部顧客への売上高	232,216	10,164,059	—	10,164,059
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,900	3,927	△3,927	—
計	236,116	10,167,987	△3,927	10,164,059
セグメント利益又は損失(△)	△56,584	6,840	△35,754	△28,914

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△35,754千円には、のれんの償却費△41,104千円、各報告セグメントに配分していない全社費用4,702千円、棚卸資産の調整額△0千円及びセグメント間取引消去648千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	和装宝飾	D S M	教育	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	159	—	—	—	—	159

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社灯学舎の株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「教育事業」セグメントにおいて、のれんが88,023千円増加しております。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

教育事業子会社の取得

当社は、2023年11月15日開催の取締役会において、株式会社灯学舎の株式を取得することを決議し、2023年12月1日付で取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社灯学舎
事業の内容 学習塾の経営

② 企業結合を行った主な理由

教育事業の発展拡大のため

③ 企業結合日

2023年12月1日

④ 企業結合の法的形式

対価を現金等の財産のみとする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

株式会社灯学舎

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式取得により、株式会社灯学舎議決権の100%を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績期間

当第3四半期連結累計期間は、貸借対照表のみを連結しているため、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	75,000千円
取得原価		75,000

(4) 主要な取得関連費用の内訳及び金額

アドバイザー等に対する報酬・手数料 12,700千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額 88,023千円

② 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力により発生したものであります。

③ 償却方法及び償却期間

7年間にわたる均等償却